

平成24年度 産業機械の受注見通し

平成24年2月
社団法人日本産業機械工業会

平成23年度のわが国経済は、東日本大震災により寸断されたサプライチェーン立て直しが予想以上のスピードで進展するなど、夏場にかけて緩やかに回復していたものの、欧州の財政・金融問題等を発端にした海外経済の減速や歴史的な円高の進行、タイの洪水被害の影響、今冬も続く電力不足への対応等により、先行き不透明感が高まっている。

そのような情勢の下、産業機械（当工業会取扱い）の平成23年度受注見込みと平成24年度受注見通しを以下の通り策定した。

（平成23年度受注見込み）

内需は、大震災の影響により落ち込む中、製造業の底固い需要や電力不足への緊急電源への対応、震災復興関連の需要の顕在化等により、対前年度比7.7%増の3兆1,691億円と見込んだ。民需は、製造業が化学、石油製品、鉄鋼、はん用・生産用機械、自動車向けで増加し、非製造業も電力向けが増加していることから、前年度実績を上回ると見込んだ。官公需も、環境装置のうち特にごみ処理装置が低水準ながら増加していることから、前年度実績を上回ると見込んだ。

外需は、中国向けが減速しつつあるものの、アジア全体では増加が続いており、欧州、北米向けも低水準ながら前年度実績を上回っている。特に、オセアニア向け天然ガス関連の大型プロジェクトの受注を含み、対前年度比61.6%増の2兆9,153億円と見込んだ。

この結果、内外総合では、対前年度比28.2%増の6兆844億円と見込んだ。

（なお、平成23年度見込みの外需は、過去最高金額を更新する。）

（平成24年度受注見通し）

内需は、民需が減少するものの官公需の増加により、対前年度比0.9%増の3兆1,983億円と見込んだ。民需は、自家発電設備の増設や省エネ・省力化投資等の増加を期待するものの、海外への生産シフトが進む中、国内での大型投資には慎重な姿勢を続ける需要部門が多いと思われることから大幅な増加は見込みがたく、また、前年度のような電力向けの緊急電源の対応といった需要も減少するとみて、前年度実績を下回るものと見込んだ。なお、官公需は、被災地の復興のためにインフラ基盤の再整備や震災ガレキ処理の継続等に関し、産業機械業界としても全力をあげて取り組むことにより、前年度実績を上回るものと見込んだ。

外需は、新興国・資源国等の資源・エネルギー分野での需要拡大や都市化・工業化投資の活発化、日本企業の海外生産拠点の充実等に伴う需要増を見込むものの、円高の長期化等を背景に受注環境が厳しさを増しており、また、前年度に天然ガス関連の大型プロジェクトを受注した反動もあって、対前年度比23.3%減の2兆2,366億円と見込んだ。

この結果、内外総合では、対前年度比10.7%減の5兆4,350億円と見込んだ（外需の反動減の特殊要因を除いた場合は、若干の増加が見込めるものと思われる。）

1. ボイラ・原動機

平成23年度

内需は、震災等の影響により電力向けで原子力関連設備が減少した反面、電力の供給不足への緊急対応や、化学、電気機械、情報通信機械、自動車向け等の増加により、対前年度比100.0%の1兆313億円と見込んだ。

外需は、アジア、北米、オセアニア向けの増加により、対前年度比140.0%の7,070億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比113.1%の1兆7,383億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、電力不足等を背景にした自家発電設備の新設・増設等による需要が増加するものの、被災発電所の復旧等の緊急対応の収束により、対前年度比95.0%の9,797億円と見込んだ。

外需は、新興諸国での電力需要の拡大に加え、世界的な天然ガスシフトや再生可能エネルギーの活用等により市場の拡大を期待するものの、円高等を背景にした価格競争の激化や、前年度にアジア向けで大型設備を受注した反動減もあって、対前年度比90.0%の6,363億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比93.0%の1兆6,161億円と見込んだ。

2. 鉱山機械

平成23年度

内需は、鉱業、建設向けの増加により、対前年度比105.0%の118億円と見込んだ。

外需は、アジア向けの減少により、対前年度比80.0%の39億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比97.5%の157億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、震災復興により設備稼働率の上昇に伴う維持・更新等の増加により、対前年度比110.0%の130億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、新興国・資源国における都市インフラ整備や資源開発等による需要増を期待し、また、前年度が過去の受注のキャンセル等により落ち込んでいた反動もあって、対前年度比150.0%の58億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比119.9%の188億円と見込んだ。

3. 化学機械

(冷凍機械、環境装置のうち大気汚染防止装置と水質汚濁防止装置を含む)

平成23年度

内需は、官公需が減少しているものの、民需が繊維、化学、窯業土石、非鉄金属、電力向けで増加していることから、対前年度比110.0%の8,227億円と見込んだ。

外需は、アジア、アフリカ、オセアニア向けで増加し、特にオセアニア向けではLNGプラントの受注により大幅増し、対前年度比270.0%の1兆4,119億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比175.8%の2兆2,347億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、震災復興が本格化する一方で、被災地域以外の公共投資の発注が先送りされる可能性があり、民需も省エネ投資や設備の維持・補修等が中心となり能力増強といった大型投資の増加が見込みが多く、受注金額としてはほぼ前年度並みの対前年度比100.0%の8,227億円と見込んだ。

外需は、天然ガス関連や肥料・合成樹脂、社会インフラ整備等のプロジェクトがアジアや中東、北アフリカ等で計画があることから需要増を期待するものの、前年度にLNGの大型プラントを受注していた反動減に加え、円高等を背景にした価格競争の激化により、対前年度比55.0%の7,765億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比71.6%の1兆5,993億円と見込んだ。

4. タンク

平成23年度

内需は、石油製品、電力、その他非製造業向けが増加し、特に電力向けでは大型設備の受注により大幅増し、対前年度比350.0%の553億円と見込んだ。

外需は、アジア、オセアニア向けが増加し、特にアジア向けで大型設備を受注したことから、対前年度比160.0%の282億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比249.7%の836億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、天然ガスへのエネルギーシフトによるLNG関連設備の需要増を期待するものの、前年度に電力向けで大型設備を受注していた反動から、受注金額では前年度を下回ると予想し、対前年度比65.0%の359億円と見込んだ。

外需は、LNG受入基地等の整備が東南アジアを中心に増加すると期待するものの、前年度にアジア向けで大型設備を受注した反動減に加え、円高等を背景にした価格競争の激化により、対前年度比90.0%の254億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比73.5%の614億円と見込んだ。

5. プラスチック加工機械

平成23年度

内需は、情報通信機械、代理店向けが減少しているものの、化学、自動車向けの増加により、対前年度比100.0%の649億円と見込んだ。

外需は、アジア向けの減少により、対前年度比95.0%の1,096億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比96.8%の1,746億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、自動車関連の設備投資の再開や震災復興に伴う住宅関連の設備投資の増加等を期待するものの、電子部品や工業部品の海外生産シフトが進む等、国内での新規の設備投資に慎重な姿勢を続ける需要部門が多いと思われることから、受注金額ではほぼ前年度並みの、対前年度比100.0%の649億円と見込んだ。

外需は、タイの洪水被害への対応や日系企業の海外生産拠点の整備、北米等の自動車関連の設備投資の回復といった増加要因に期待するものの、円高を背景にした価格競争の激化等により、受注金額では前年度を下回ると予想し、対前年度比95.0%の1,041億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比96.9%の1,691億円と見込んだ。

6. ポンプ

平成23年度

内需は、紙・パルプ、化学、電力、官公需、代理店向けの増加により、対前年度比105.0%の1,995億円と見込んだ。

外需は、アジア、中東向けの増加により、対前年度比110.0%の922億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比106.5%の2,918億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、民需が設備の維持・補修や省エネ化投資等が中心となり前年度比横ばいで推移するものの、官公需の復興需要等が本格化するとみて、対前年度比105.0%の2,095億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、オイル&ガス、発電、水分野のプロジェクトがアジアや中東で堅調に推移すると思われることから、対前年度比105.0%の968億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比105.0%の3,064億円と見込んだ。

7. 圧縮機

平成23年度

内需は、化学、石油製品、はん用・生産用機械、建設向けの増加により、対前年度比105.0%の1,425億円と見込んだ。

外需は、アジア、中東、北米向けの増加により、対前年度比105.0%の1,604億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比105.0%の3,030億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、震災からの復興需要がある一方で、海外生産シフトが進む中、国内での新規投資に慎重な姿勢が続き、設備の維持・補修、省エネ化投資等が中心となることから、受注金額ではほぼ前年度並みの対前年度比100.0%の1,425億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、タイの洪水被害への対応やLNG関連設備での需要増により、対前年度比105.0%の1,684億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比102.6%の3,110億円と見込んだ。

8. 送風機

平成23年度

内需は、民需の運輸向け、官公需向けともに、前年度に大型設備を受注した反動により減少していることから、対前年度比75.0%の154億円と見込んだ。

外需は、アジア向けが前年度に大型設備を受注した反動により減少していることから、対前年度比80.0%の45億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比76.1%の200億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、震災の復興需要や電力向けの更新需要の他、トンネルの換気設備等が計画通り発注されることを期待し、対前年度比110.0%の169億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、アジアや中東での発電・天然ガス関連での需要増により、対前年度比105.0%の48億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比108.9%の217億円と見込んだ。

9. 運搬機械

平成23年度

内需は、食品、繊維、非鉄金属、情報通信、自動車、情報サービス、官公需向けの増加により、対前年度比105.0%の2,324億円と見込んだ。

外需は、アジア、北米向けの減少により、対前年度比95.0%の1,123億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比101.5%の3,447億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、震災の復興需要や先延ばしされていた設備投資の再開、省エネ化投資等の増加を期待するものの、製造業の海外移転等の計画が進む中、国内での設備投資に慎重な姿勢を続ける需要部門が多いと思われることから、受注金額では前年度を下回ると予想し、対前年度比95.0%の2,208億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、タイの洪水被害への対応や新興国・資源国での素材・資源・エネルギー関連の設備投資等の増加により、対前年度比105.0%の1,179億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比98.3%の3,387億円と見込んだ。

10. 変速機

平成23年度

内需は、化学、はん用・生産用機械、電力向けの増加により、対前年度比105.0%の461億円と見込んだ。

外需は、アジア、欧州向けの減少により、対前年度比85.0%の118億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比100.2%の580億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、海外メーカーとの価格競争が厳しさを増す中、産業機械向け等の一部に底固い需要を期待するものの、製造業の海外移転等の計画が進む中、国内での設備投資に慎重な姿勢を続ける需要部門が多いと思われることから、受注金額としてはほぼ前年度並みの、対前年度比100.0%の461億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化する中、海外での受注・生産体制への移行により減少し、対前年度比70.0%の82億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比93.9%の544億円と見込んだ。

11. 金属加工機械（製鉄機械）

平成23年度

内需は、鉄鋼、金属製品、自動車向けの増加により、対前年度比110.0%の513億円と見込んだ。

外需は、アジア向けの増加により、対前年度比110.0%の1,683億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比110.0%の2,197億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、主力の鉄鋼向けでは更新需要が中心となることから、ほぼ前年度並みの、対前年度比100.0%の513億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、国内鉄鋼メーカーの海外展開に伴う需要増や自動車関連での設備投資の拡大に期待し、対前年度比105.0%の1,767億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比103.8%の2,281億円と見込んだ。

12. その他産業機械

（業務用洗濯機、メカニカルシール等を含むが、中核をなすのは官公需向けごみ処理装置である。）

平成23年度

内需は、官公需の増加に加え、民需も鉄鋼、情報通信機械、建設、電力、その他非製造業向けも増加していることから、対前年度比120.0%の4,952億円と見込んだ。

外需は、欧州向けが増加しているもののアジア向けの減少により、対前年度比95.0%の1,046億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比114.7%の5,999億円と見込んだ。

平成24年度

内需は、震災ガレキの処理等への対応の継続や、延期されていた都市ごみ処理装置の新設計画等の進捗による発注量の回復、熱回収・発電ニーズの拡大に期待し、対前年度比120.0%の5,943億円と見込んだ。

外需は、円高等を背景にした価格競争が激化するものの、中国等のアジア主要都市での需要増や、埋め立て処理が中心であった欧州等でのごみ焼却処理による熱回収・発電ニーズの拡大等により、対前年度比110.0%の1,151億円と見込んだ。

内外総合では、対前年度比118.3%の7,094億円と見込んだ。

平成24年度 産業機械機種別受注見通し

社団法人日本産業機械工業会
(単位 金額:百万円)

機種	平成22年度実績		平成23年度見込み		対前年度比		平成24年度見通し		対前年度比				
	内需	外需	内需	外需	内需	外需	内需	外需	内需	外需			
ボイラ・原動機	1,031,307	505,057	1,031,307	707,080	1,738,387	140.0%	113.1%	979,742	636,372	1,616,114	95.0%	90.0%	93.0%
鋳山機械	11,284	4,882	16,166	3,906	15,755	80.0%	97.5%	13,034	5,859	18,893	110.0%	150.0%	119.9%
化学機械	747,992	522,934	1,270,926	1,411,922	2,234,714	110.0%	270.0%	822,792	776,558	1,599,350	100.0%	55.0%	71.6%
タ ン ク	15,811	17,677	33,488	28,284	83,623	350.0%	249.7%	35,971	25,456	61,427	65.0%	90.0%	73.5%
プラスチック加工機械	64,980	115,439	180,419	109,668	174,648	100.0%	96.8%	64,980	104,185	169,165	100.0%	95.0%	96.9%
ボ ン ブ	190,053	83,883	273,936	92,272	291,828	105.0%	110.0%	209,534	96,886	306,420	105.0%	105.0%	105.0%
圧 縮 機	135,787	152,789	288,576	160,429	303,006	105.0%	105.0%	142,577	168,451	311,028	100.0%	105.0%	102.6%
送 風 機	20,559	5,724	26,283	4,580	20,000	75.0%	80.0%	16,962	4,809	21,771	110.0%	105.0%	108.9%
運 搬 機 械	221,368	118,240	339,608	112,328	344,765	105.0%	101.5%	220,816	117,945	338,761	95.0%	105.0%	98.3%
変 速 機	43,991	13,912	57,903	11,826	58,017	105.0%	85.0%	46,191	8,279	54,470	100.0%	70.0%	93.9%
金属加工機械	46,705	153,071	199,776	168,379	219,755	110.0%	110.0%	51,376	176,798	228,174	100.0%	105.0%	103.8%
そ の 他	412,748	110,144	522,892	104,637	599,935	120.0%	114.7%	594,358	115,101	709,459	120.0%	110.0%	118.3%
合 計	2,942,585	1,803,752	4,746,337	2,915,311	6,084,433	107.7%	161.6%	3,198,333	2,236,699	5,435,032	100.9%	76.7%	89.3%

社団法人日本産業機械工業会 自主統計ベース

注1)化学機械の中にバルブ・製紙機械、冷凍機械、大気汚染防止装置、水質汚濁防止装置を含む。

2)金属加工機械：製鉄機械及びプレス

3)その他：ごみ処理装置、業務用洗濯機、メカニカルシール等

各機種の見込み及び見通しは、単位未満四捨五入している。その値の合計値は一致しないことがある。

網掛けは前年度比100%以上